（別紙4）　　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人　慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷 （せせらぎ）		
所在地	岐阜県美濃加茂市本郷町3－20－15		
自己評価作成日	令和6年9月15日	評価結果市町村受理日	令和7年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200344-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住宅や学校等が立ち並ぶ閑静な場所に立地する事業所は、ラジオ体操やリハビリ運動を出来るだけ取り入れ筋力低下とならないように努めている。また、食の楽しみとなるよう管理栄養士が立てた献立をアレンジしたり、1週間に1回手作りパンモーニングや昼食バイキング等行事食の機会を増やしている。そして、利用者個人の強みを引きだし、利用者個人の出来る事がホームの中で役割に繋がるよう努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関の周りには草花が咲いており、金木犀の香りが漂う穏やかで明るい事業所である。コロナ禍で外出支援を含めて様々な活動制限がある中で、月1回、新しい行事を企画したり、行事食の提供を始めるなど、工夫している。バイキング形式や喫茶店形式の提供方法を取り入れたり、利用者の手作りメニューなど、食べることを楽しめるよう取り組んでいる。利用者の居室は広く、洗面所も設置されており、穏やかな日常を送ることが出来ている。職員は、毎日のケアを振り返り、記録し、全員で共有しながらより良いサービスの提供に取り組んでいる。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己評価および外部評価結果（せせらぎ）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく家族が気軽に出入りでき、家族の和を大切にし地域と共に安心した暮らし」の理念を事務所に掲げ、全職員が共有している。また、職員会議、カンファレス等で理念を念頭に置いて意見交換し、利用者の支援に繋げている。	利用者個々がその人らしい在り様を意識して支援をしている。家族とは近況報告を送って利用者の現状を知らせている。また、近隣の人や近くの高校生と交流することで安心して生活できるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・7月に加茂農林高校生インターシップ6名受け入れ実施した。 ・いきいきボランティア交流毎月実施している ・ご家族はグループホームへ来所され面会されている	周辺は新興住宅地であり、自治会には加入していないが、近隣の県立高校のインターンシップ受け入れを再開し、コロナ禍以前のように交流することが出来ている。	行事や活動が少ない地域であるため、交流の機会が少ない。現在、高校やボランティアとの交流を再開出来ているが、今後は、地域の中で、住民を巻き込んだ交流機会の工夫に期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、主な活動、出来事、事故報告、職員の異動、研修等を報告し、委員の皆様より、ご意見をいただいている。地域の動向や困難事例の相談等もあり、闊達な意見交換をすることで、サービスに活かしている。	運営推進会議を定期的に開催し、事業所の活動や行事計画、利用者の支援状況等を細かく伝えている。地域包括支援センターや民生委員から地元の様々な出来事を聞きながら、地域の情報を把握し、意見交換を行なっている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚労省・行政の情報や介護保険の改正、他事業所情報交換等により、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、行政には毎月初、事業所の利用者状況、待機者情報の報告を行っている。	行政とは、運営推進会議や毎月の活動報告時に、介護保険制度や健康保険証の更新等について、情報交換をしながら、協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修（法人エリア研修、新人研修、中堅研修、中堅ファローアップ研修、法人外研修）の参加、また法人内研修により、知識の向上を目指している。日勤帯は玄関や居室の掃き出し窓を開放している。身体拘束は行っていない。	「身体拘束廃止及び虐待廃止委員会」をエリア長も参加した上で開催し、声かけの仕方や不適切ケアについて話し合い、実際の状況について検証している。どんなことがあっても拘束は行わない、という固い意志を持ってケアに取り組んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修（法人内、外）への参加、伝達研修を含め、職員の虐待意識にの向上につとめている。エリアでは「不適切ケア」の講義を実施し虐待防止につとめている。	職員のストレスチェックを実施している。管理者は、職員の疲労やストレスが、利用者へのケアに影響することのないよう注意を払っている。また、職員が相談しやすい環境作りと共に、不適切ケアを見逃さないよう努めている。	

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、日常生活自立支援事業の活用について職員会議等で必要に応じて事例を挙げ、職員が理解を深めるように心掛けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、家族が理解、納得できるようじっくりと時間を掛ける説明をしている。法改正等があった場合は、文章や電話にて説明、理解していただけるようにつとめている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族に近況報告書を送り、その月の様子等をお知らせし、「ご意見、ご要望」欄を設けている。担当者会議、面会時には家族からのご意見等の確認、満足度アンケートの実施により、意見、要望等を伺い反映している。	コロナ禍では、面会制限を設けたり、窓越しでの面会を行っていたが、「ホーム便り」に季節の行事や利用者の様子を写真付きで掲載し、きめ細かな説明と報告を行なっている。ホームページでも見ることができる。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議やユニット会議を実施し、職員からの意見、提案を聴く機会を設けている。事業所の運用の決め事は、出来る限り会議内で決定するようにしている。	管理者は、職員の意見や要望を聞き取り、運営に問題があれば、早い段階で解決できるよう努めている。事前に職員アンケートを実施し、ユニット会議や職員会議で話し合い、スムーズな課題解決に繋げている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人は『岐阜県ワークライフバランス推進エクセレント企業』の認定を受け、給与水準、労働時間、子育て支援など働きやすい環境作りにつとめている。また、自己評価を基に努力や実績等を把握している。	休憩時間は、現場から離れたところで休めるよう、時間をずらしながら、必ず1時間取れるよう職員間で協力し合っている。働きやすい職場環境と職員が希望の休みを適切に取れる就業環境となっている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅、中堅フォロー、リーダー、管理職コースで研修を実施している。また、法人外研修の参加の奨励、法人による介護福祉士受講対策講座を行っている。	職員は、定期的に開催する法人研修や勉強会で学ぶことができる。管理者は、職員一人ひとりが資格取得や目標とする将来像を目指しながら、希望の働き方が出来るよう取り組んでいる。実務者研修受講の支援もある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1度、向上委員会を開催し、各事業所のサービス内容等を共有している。また、毎月、エリア内連携会議、3ヶ月に1度のエリア会議を開催し、各施設との連携をすることでサービスの質の向上につとめている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前面接の際に、利用者、家族、担当ケアマネジャー、利用サービス提供事業所から、可能な限り情報を収集し、フェイスシート及びケアチェック表を作成、職員と共有することで、利用者理解につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思い、希望、意向を傾聴、アセスメントしている。担当者会議では利用者の思い等を家族と確認、共有し、ケアプランに反映することで、サービスの提供をしている。	職員は、日々の個別ケア時や会話する中で、利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるよう寄り添いながら支援に努めている。また、新たに気づいた利用者の思いは記録に残し、家族からも情報を得ながら、ケアプランに活かしている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族より要望等の確認を行い、ユニット会議や担当者会議により、利用者の心身状況、意向や要望を再確認し、何がどこまで、どのように支援できるかを全員で考え作成している。	ケアプラン作成会議には家族も同席している。家族の意見や要望を確認し、担当職員を含めてカンファレンスを行い、利用者の状態について話し合いながら、現状に即した介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録から日々の様子、ケアプラン実施時状況、BPSD等、職員全員がいつでも確認できるシステムの活用と毎月行うユニット会議で情報を再確認しながら、処遇の変更やケアプラン見直しに活かしている。	利用者の状態や日々の記録を連携させたシステムを活用することで、全職員がいつでも利用者の状況を確認できている。日々変化する利用者の状態や情報を常に共有しながら、適切なケアの実践に繋げている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状況に合わせて、多種職と連携しながら、安全かつ安楽な生活に繋げるサービスの提供に繋がるよう工夫している。	コロナ禍での面会は予約が必要であったが、状況に応じて、急な面会であっても適切な対応に努めており、家族にも喜ばれている。また、情報提供のために医療機関への同行や、利用者の生活用品の購入代行など、柔軟に支援している。	

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会の実施・ご家族との外出機会・高校生のインターシップ受け入れとそれぞれ交流を行っている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は利用者の従来のかかりつけ医を基本としているが、家族の要望によっては訪問診療の受け入れも行っている。利用者の体調不良時は訪問看護師や主治医へ情報提供を行い、必要に応じて職員が同行し状態を説明することで、より適切な診断となるように心掛けている。	かかりつけ医は入居前の主治医を基本とし、訪問診療も受け入れている。それ以外は、家族が同行して受診しているが、緊急時には、職員が適切に対応している。かかりつけ医や訪問看護ステーションと連携しながら支援し、本人・家族の安心につなげている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、その日のうちに医療機関への情報提供を行い、入院によるBPSDの緩和に繋げている。また、入院中は定期的な様子うかがいをしている。	緊急時には、利用者のかかりつけ医と相談の上、協力医療機関に入院している。協力医とは、日頃から利用者の状態についても情報交換をしており、退院時の支援もスムーズに行うことができている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約に関する説明の中で「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明している。利用者の体調変化が見られた際は、家族、主治医、訪問看護師と連携を取りながら、今後の対応方針や緊急時の対応、相談等支援している。また、受け入れ先の施設へは丁寧に情報提供している。	契約時に、重度化や終末期の方針を説明している。状態変化の都度、家族と話し合いながら、事業所として出来る支援を提供し、利用者が穏やかで快適な終末期を迎えられる施設への移行を案内している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメントマニュアルに沿って対応するよう職員に徹底している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。夜間想定（少人数）の消防訓練では、夜勤者の動線を確認しながら実施している。	火災・地震・水害、さらに感染症対策を適切に行うための業務継続計画（BCP）を作成している。法人の地元職員を含めた緊急時の連絡体制を作り、法人全体で対策を講じている。非常時の対策の1つとして、浴槽には水を溜めておくようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の価値観、大切にしている事を把握し、その人本位のケアを心がけ言葉使いに注意している。また、排泄や入浴等への言葉がけも、さりげなく行えるよう努めている。	権利擁護、接遇研修を行なっている。利用者との長い関わりから、慣れ合いによる言葉がけにならないよう注意し、日々のケアにあたっている。便りに個人写真を掲載する際には、それぞれ同意を得ている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は自分の思いや要望、感情をはっきり表される方が多く、何でも言いやすい環境、自己決定が出来るような言葉がけ、場面を作るよう心掛けている。飲み物やバイキングの献立、余暇時間の塗り絵や脳トレ等も利用者が選択している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースを優先し、生活が充実するよう個人のできる事を強める為に、張合い、生きがい、楽しみが感じられるよう支援している。また、利用者個々のタイミングを計り言葉掛けする事で混乱や拒否の軽減しつとめている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい食事を献立に取り入れ、自分ごはんを行ったり、手作りおやつ、季節の献立（朴葉寿司等）を計画している。盛り付け、片付けは当番制にしている。毎月の行事内容にちなんだメニューを取り入れている。	茶碗、汁椀、湯飲み等は、利用者が自宅から使い慣れたものを持参している。献立は法人の管理栄養士が作成し、それぞれの事業所、ユニットで工夫を加えて手作りしている。手作りパンの日は、事業所でパンを焼くなど、豊富なメニューを工夫し利用者を楽しませている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を基に必要カロリー、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者の状態に応じ管理栄養士や歯科医等に相談し食事形態の変更、嗜好物への食材の代替え等行っている。水分はコーヒーや麦茶・ジュースも提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後言葉掛け行い、利用者の口腔状態を把握し、必要に応じ一緒に食後の口腔ケア、義歯の保管を行っている。訪問口腔ケアを利用している利用者は、歯科衛生士より口腔内状態、指導内容を確認し清潔の保持につとめている。	利用者は、毎食後に居室の洗面所で口腔ケアを行っている。利用者が自分で出来る場合は見守りで支援し、出来ない人には必要に応じて手助けしている。職員は、歯科衛生士の訪問時に、口腔ケアの正しい支援方法を学んでいる。	

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。排泄時間や便の状態などを申送り、見守り、言葉がけ、誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、パッド等の排泄用品も利用者の状態に合わせ都度変更している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本とし、一人一人がゆっくり入浴して頂けるよう入浴時間を変更し支援している。利用者の心身状態に応じて、入浴方法や日程変更を行っている。手すりやすべり止めマット等の設置など、安全に留意している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には馴染みのタンス、寝具等を使用し、安心できる生活空間と、適切な温度調整をこまめに行うことで快適な室温の中、安眠に繋げている。個々の生活習慣を尊重し、居心地の良い暮らしに繋げている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報はファイルに保管し、いつでも確認できるようしている。薬剤変更、臨時薬、頓服が処方された時は、業務日報、ホワイトボード、申し送りノートへの記録、掲示を徹底し、職員全員が共有している。	薬剤に変更があった時は、日報や介護記録、申し送りノートに記録し、ボードにも掲示するなど、全職員が把握できるよう徹底し、利用者の状態変化を注意深く観察している。服薬支援の際には、複数の職員で手渡しから飲み終わるまでを確認している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、提供したサービスや日常生活から気付いた強みをを活かし、ケアプランを作成することで、職員が共通したケアを提供している。誕生日に食べたいものをお聴きし、食事やおやつで提供している。	利用者の生活歴から、事業所内で役割りを持って出来ることを見つけ、生活の張り合いに繋げている。また　役割を果たせた利用者に、職員が笑顔で感謝することで、更に生き甲斐となるよう支援している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回スーパーへ利用者と買い物へ行っている。	コロナ禍は、外出制限をしていたが、現在は、できる限り以前のような支援を行うよう努めている。新たな支援として、毎月1回、季節に合わせた行事と季節の行事食を提供するなど、利用者の楽しみと満足感に繋がるよう支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にお願いしているためお金を扱う機会はほとんど無い。紛失や利用者同士の貸し借り等によるトラブルを防ぐため、本人様の現金所持は行っていない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より電話の希望がある場合は職員が訴えを要望をお聞きしご家族へ連絡し対応している。携帯電話保持されている方が1名みえ使用できる状況である。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに作成した作品を飾るなどしている。居間には一人ひとりゆったりと座れるソファーをTV周りに設置し利用者同士が楽しく会話できる環境作りをしている。湿度、気温も小まめに調整し、カーテンや日よけによって遮光や温度調整を行っている。	事業所内で運動会を開催した際の万国旗が飾られており、楽しい行事の様子がうかがわれた。食事中は誤嚥の無いよう静かにテーブルを囲み、食後は、テレビ前のソファーや好きな場所で、利用者同士が居心地良く過ごせるよう空間作りを行なっている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では自由に座っていただき、気の合う利用者同士、会話を楽しんでいる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が自由に使用が可能となっており、写真や作品、テレビ、家具等、お好きな配置をしていただいている。季節やADLに合わせて、光や暑さの加減をしたり、身体状況に合わせてベッドの位置を変えるなど、居心地よく安全に過ごして頂くよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を安全に自立歩行が出来るよう、歩行器等の置き場所を決めたり、障害物がないように整理整頓を心がけている。家事等への参加がしやすいようテーブルの配置に余裕を持たせるなどしている。		

（別紙4）　　令和　6　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人　慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷 （ぬくもり）		
所在地	岐阜県美濃加茂市本郷町3－20－15		
自己評価作成日	令和6年9月15日	評価結果市町村受理日	令和7年1月 20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和6年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：15）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：14,27）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：27）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：25,26）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：36）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：20）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：18）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：8,9）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：3）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
53	職員は、活き活きと働けている（参考項目：10,11）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己評価および外部評価結果（ぬくもり）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく家族が気軽に出入りでき、家族の和を大切にし地域と共に安心した暮らし」の理念を事務所に掲げ、全職員が共有している。また、職員会議、カンファレス等で理念を念頭に置いて意見交換し、利用者の支援に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・7月に加茂農林高校生インターシップ6名受け入れ実施した。 ・いきいきボランティア交流毎月実施している ・ご家族はグループホームへ来所され面会されている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、主な活動、出来事、事故報告、職員の異動、研修等を報告し、委員の皆様より、ご意見をいただいている。地域の動向や困難事例の相談等もあり、闊達な意見交換をすることで、サービスに活かしている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	厚労省・行政の情報や介護保険の改正、他事業所情報交換等により、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、行政には毎月初、事業所の利用者状況、待機者情報の報告を行っている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修（法人エリア研修、新人研修、中堅研修、中堅ファローアップ研修、法人外研修）の参加、また法人内研修により、知識の向上を目指している。日勤帯は玄関や居室の掃き出し窓を開放している。身体拘束は行っていない。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修（法人内、外）への参加、伝達研修を含め、職員の虐待意識にの向上につとめている。エリアでは「不適切ケア」の講義を実施し虐待防止につとめている。		

岐阜県　さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、日常生活自立支援事業の活用について職員会議等で必要に応じて事例を挙げ、職員が理解を深めるように心掛けている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には、家族が理解、納得できるようじっくりと時間を掛ける説明をしている。法改正等があった場合は、文章や電話にて説明、理解していただけるようにつとめている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びにに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族に近況報告書を送り、その月の様子等をお知らせし、「ご意見、ご要望」欄を設けている。担当者会議、面会時には家族からのご意見等の確認、満足度アンケートの実施により、意見、要望等を伺い反映している。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議やユニット会議を実施し、職員からの意見、提案を聴く機会を設けている。事業所の運用の決め事は、出来る限り会議内で決定するようにしている。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	法人は『岐阜県ワークライフバランス推進エクセレント企業』の認定を受け、給与水準、労働時間、子育て支援など働きやすい環境作りにつとめている。また、自己評価を基に努力や実績等を把握している。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅、中堅フォロー、リーダー、管理職コースで研修を実施している。また、法人外研修の参加の奨励、法人による介護福祉士受講対策講座を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会つくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	2ヶ月に1度、向上委員会を開催し、各事業所のサービス内容等を共有している。また、毎月、エリア内連携会議、3ヶ月に1度のエリア会議を開催し、各施設との連携をすることでサービスの質の向上につとめている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前面接の際に、利用者、家族、担当ケアマネジャー、利用サービス提供事業所から、可能な限り情報を収集し、フェイスシート及びケアチェック表を作成、職員と共有することで、利用者理解につとめている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々の思い、希望、意向を傾聴、アセスメントしている。担当者会議では利用者の思い等を家族と確認、共有し、ケアプランに反映することで、サービスの提供をしている。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人、家族より要望等の確認を行い、ユニット会議や担当者会議により、利用者の心身状況、意向や要望を再確認し、何がどこまで、どのように支援できるかを全員で考え作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録から日々の様子、ケアプラン実施時状況、BPSD等、職員全員がいつでも確認できるシステムの活用と毎月行うユニット会議で情報を再確認しながら、処遇の変更やケアプラン見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々の状況に合わせて、多種職と連携しながら、安全かつ安楽な生活に繋げるサービスの提供に繋がるよう工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会の実施・ご家族との外出機会・高校生のインターシップ受け入れとそれぞれ交流を行っている		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は利用者の従来のかかりつけ医を基本としているが、家族の要望によっては訪問診療の受け入れも行っている。利用者の体調不良時は訪問看護師や主治医へ情報提供を行い、必要に応じて職員が同行し状態を説明することで、より適切な診断となるように心掛けている。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、その日のうちに医療機関への情報提供を行い、入院によるBPSDの緩和に繋げている。また、入院中は定期的な様子うかがいをしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約に関する説明の中で「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明している。利用者の体調変化が見られた際は、家族、主治医、訪問看護師と連携を取りながら、今後の対応方針や緊急時の対応、相談等支援している。また、受け入れ先の施設へは丁寧に情報提供している。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	リスクマネジメントマニュアルに沿って対応するよう職員に徹底している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施している。夜間想定（少人数）の消防訓練では、夜勤者の動線を確認しながら実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の価値観、大切にしている事を把握し、その人本位のケアを心がけ言葉使いに注意している。また、排泄や入浴等への言葉がけも、さりげなく行えるよう努めている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者は自分の思いや要望、感情をはっきり表される方が多く、何でも言いやすい環境、自己決定が出来るような言葉がけ、場面を作るよう心掛けている。飲み物やバイキングの献立、余暇時間の塗り絵や脳トレ等も利用者が選択している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個々のペースを優先し、生活が充実するよう個人のできる事を強める為に、張合い、生きがい、楽しみが感じられるよう支援している。また、利用者個々のタイミングを計り言葉掛けする事で混乱や拒否の軽減しつとめている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい食事を献立に取り入れ、自分ごはんを行ったり、手作りおやつ、季節の献立（朴葉寿司等）を計画している。盛り付け、片付けは当番制にしている。毎月の行事内容にちなんだメニューを取り入れている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立を基に必要カロリー、栄養バランスの取れた食事を提供している。利用者の状態に応じ管理栄養士や歯科医等に相談し食事形態の変更、嗜好物への食材の代替え等行っている。水分はコーヒーや麦茶・ジュースも提供している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後言葉掛け行い、利用者の口腔状態を把握し、必要に応じ一緒に食後の口腔ケア、義歯の保管を行っている。訪問口腔ケアを利用している利用者は、歯科衛生士より口腔内状態、指導内容を確認し清潔の保持につとめている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本としている。排泄時間や便の状態などを申送り、見守り、言葉がけ、誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている。また、パッド等の排泄用品も利用者の状態に合わせ都度変更している。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回の入浴を基本とし、一人一人がゆっくり入浴して頂けるよう入浴時間を変更し支援している。利用者の心身状態に応じて、入浴方法や日程変更を行っている。手すりやすべり止めマット等の設置など、安全に留意している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室には馴染みのタンス、寝具等を使用し、安心できる生活空間と、適切な温度調整をこまめに行うことで快適な室温の中、安眠に繋げている。個々の生活習慣を尊重し、居心地の良い暮らしに繋げている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬剤情報はファイルに保管し、いつでも確認できるようしている。薬剤変更、臨時薬、頓服が処方された時は、業務日報、ホワイトボード、申し送りノートへの記録、掲示を徹底し、職員全員が共有している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、提供したサービスや日常生活から気付いた強みをを活かし、ケアプランを作成することで、職員が共通したケアを提供している。誕生日に食べたいものをお聴きし、食事やおやつで提供している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1回スーパーへ利用者と買い物へ行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族にお願いしているためお金を扱う機会はほとんど無い。紛失や利用者同士の貸し借り等によるトラブルを防ぐため、本人様の現金所持は行っていない。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より電話の希望がある場合は要望をお聞きし職員がご家族へ連絡し対応している。携帯電話保持されている方が2名みえそれぞれ使用できる状況である。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに作成した作品を飾るなどしている。居間には一人ひとりゆったりと座れるソファーをTV周りに設置し利用者同士が楽しく会話できる環境作りをしている。湿度、気温も小まめに調整し、カーテンや日よけによって遮光や温度調整を行っている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では自由に座っていただき、気の合う利用者同士、会話を楽しんでいる。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が自由に使用が可能となっており、写真や作品、テレビ、家具等、お好きな配置をしていただいている。季節やADLに合わせて、光や暑さの加減をしたり、身体状況に合わせてベッドの位置を変えるなど、居心地よく安全に過ごして頂くよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内を安全に自立歩行が出来るよう、歩行器等の置き場所を決めたり、障害物がないように整理整頓を心がけている。家事等への参加がしやすいようテーブルの配置に余裕を持たせるなどしている。		

事業所名 ： さわやかグループホーム本郷

作 成 日 ： 令和 7 年 1 月 10 日

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目　　標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域との交流が少ない	地域との交流が増える	・加茂農林高校とどのような交流が行えるか訪問し聞いてみる ・運営推進会議の中で地域と交流できそうな情報を教えてもらう	6　か月
2					か月
3					か月
4					か月
5					か月

注1）項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。
注2）項目数やセルの幅が足りない場合は、行を挿入してください。